

新螢池公民館長に中村徹夫氏が就任されました



本年四月の異動で、市長部局より主幹の中村徹夫氏が螢池公民館の館長として就任されました。

任され、早速当会の五月例会に出席、ご挨拶を頂きました。

中村館長には就任早々に係わらず、会場の件でご尽力頂きました。例会の会場確保については、歴代の館長にお世話をお掛けしております。

中村館長は学生時代グリーンクラブで活躍され、現在も昔の仲間とカルテットを結成し、歌われていると、お聞きしました。

またかつては三輪神社、山の辺の道を歩かれ、歴史にも興味をお持ちのようです。



五色塚古墳から兵庫県立考古博物館

(会員) 山口 久幸

桜花の季節には少し早い三月二十九日

(土) 阪急梅田駅に集合し、阪神電車姫路行特急電車に乗り込む。参加者は中司先生を含め二四名。発車時には高校野球の開催で混んでいた車内も、多くが甲子園駅で下車し、元町駅を過ぎた頃には、空席が目立つようになってきた。垂水駅で普通電車に乗換え、次の霞ヶ丘駅で下車し線路沿いの道を戻り、五色塚古墳に向かう。霞ヶ丘の地名は、かつてこの丘陵一帯に霞がよくかかったことから名付けられたと言われる。

五色塚古墳(ゴシキツカ古墳)

線路沿いの道が土手で突き当たりになると、前に五色塚古墳の雄大な姿が広がる。事前に見学の申し込みをしておいたので、管理事務所では必要数の資料を用意してく

れていた。

戦後、畑として開墾され荒廃していた古墳は、昭和四十年頃から整備が進められ、今日の姿に復元された。保存のため本来の古墳は、表土の三〇〇五〇センチメートル下にある。くびれ部付近に付けられた階段を登り、前方部の先端に立つと視界が広がる。本州から伸びる明石大橋と淡路島が良く見える。海面も穏やかな様子で、晴れた日には絶好のロケーションである。前方部の直ぐ下を山陽電車とJRが走り、その先に国道2号線が見える。古墳が築造された当時は、墳丘の近くまで海がきていたであろうと思われる。配られたレジュメを元に中司先生の説明を受ける。

五色塚古墳の築造については、日本書紀

神功皇后摂政前紀に由来が記されているが、



本来は瀬戸内海より大阪湾に入る要所を抑えていた豪族の首長墓と考えられる。その人達の存在の証として、舞子浜円筒棺群に葬られた人々、五色塚古墳の西方に位置する大歳山遺跡に居住していた人達を考えてもよいのではないか。

大阪湾の南には、淡輪古墳群があり、ここにも首長墓の存在が認められる。これも湾の入り口を抑えていた勢力の墳墓と考えられる。

五色塚古墳は、全長一九四メートル、周濠が巡り、濠の東側には、一辺二〇メートル、高さ一・五メートルの二つの方形土壇が造られている。ただ地形から見て、周濠に水が張られていた可能性は低い。くびれ部に近い壇では、祭祀が行われていたと考えられ、北側の壇からは二箇の円筒棺が発掘されている。後円部頂上には、鱈付円筒埴輪列が再現されている。

五色塚古墳に接する小壺古墳の裾を通り、海神社に向け丘陵地を下る。

海神社（カイ神社またはワタツミ神社）



五色塚古墳で解説の中司先生

JR垂水駅に隣接し、社前を国道2号線が横切り、国道を挟んで大鳥居が建っている。近年埋立が進んで、海が遠くなっているが、元は海から船で参詣するようになっていたのである。祭神は住吉三神と兄弟の綿津見三神であるが、この地で海に係わった豪族の祖先を祭ったのが始まりと考えられる。

垂水駅周辺で昼食をとり、午後はJR土山駅から大中遺跡内に開館した県立考古博物館に向かう。

兵庫県立考古博物館

JR土山駅を降りて博物館への遊歩道である「であいの道」を歩き、喜瀬川に架かる橋近くまで来ると、博物館の展望塔が眼に入る。館内では若い男女や、子供の姿が多く見られる。半地下式の館は、無料で利用できるゾーンが広くとられており、気軽に利用出来るように配慮されている。

約二時間にわたり、山本三郎先生に展示室をはじめ、館内を案内して戴く。この日は特別展示は無く常設展示場に、兵庫の歴史を幾つかのテーマに分けて展示していた。展示物の多くは手に触れることができ、子供にも興味を持てるように配置されている。「発掘ひろば」と名付けられた体験展示室の砂場では、スコップを手にした子供達が、プラスチックの刀や土器の破片を掘り起こし喚声を挙げていた。

当博物館開設にあたり、神戸市にあった



山本三郎先生の講義

県埋蔵文化財調査事務所が当所に移転し、姫路の県歴史博物館の館蔵品も姫路城関連の物を除き、当博物館に集められたようである。地下にある見学ヤードデッキからは、窓越しに発掘調査で出土した遺物の整理状況が見学できるようになっており、整理された主な遺物がデッキの一角に展示されている。展望塔より俯瞰する大中遺跡と共に、家族連れでも一日ユックリと過ごせるように思われる。

最後に中司先生、山本先生ともに、熱心に説明戴き有難う御座いました。

第二十四定期総会

五月十日、蛍池公民館において第二十四定期総会が会員八十七名の内六十三名の出席を得て開催されました。

樋口幹事の司会で山口会長・岩元幹事・林監事から各々報告・審議が行われ、すべて異議なく承認を頂きました。有り難うございました。

議題は平成十九年度活動報告・会計報告及び監査報告と平成二十年度活動計画・会則一部改定・役員改選等です。

要点は左記の通りです。

★会則を一部改定し、歴史・考古学の学識経験者を会友とすることができ、役員に相談役を置く。

★創立二十周年の行事として、一月十日に記念シンポジウムを豊中市教育委員会と共同で開催する。

★バスツアーは九月二十七日（土）に予定している。

新年度役員の手当は左記の通りです

顧問 塚口義信先生

会長 山口久幸（総括・現見）

副会長 石塚一郎（会長補佐・編集）

副会長 木村節子（会長補佐・総務）

監事 林 駿郎（会計監査）

幹事 佐藤洋栄（会計）

幹事 河内啓介（総務）

幹事 古高邦子（編集）

幹事 樋口昱夫（現見）

幹事 山端研三（総務・公民館関係）

幹事 野村武司（現見）

幹事 後藤多賀子（総務）

幹事 岩元影子（総務）

幹事 小松千津（総務）

幹事 今中典男（編集）

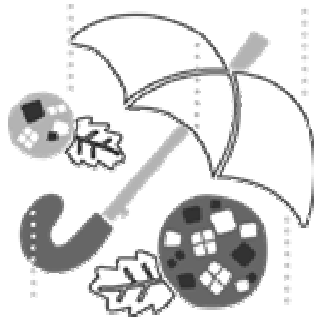
相談役 西垣健一

相談役 宮田佐智子

田中啓祐・野田昌夫のお二人には編集に多大なご協力を頂いております。前年度同様、よろしくお願いいたします。

一九八八年の発足以来、会の発展のためにご尽力頂きました西垣健一さん宮田佐智子さんが各々会長・副会長を退かれました。これまでのご功労に厚く御礼申し上げます。

今後は相談役としてご指導頂きます。



七月の現地見学

関西大学博物館・旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）の見学を予定しています。

詳細は後日お知らせします。

七月の例会

七月十二日（土） 午後二時より

会場 豊中市教育センター

（ルシオーレビル六階）

「四世紀末の争乱と鴨氏」

堺女子短期大学 学長 塚口義信 先生

編集後記

三月より現地見学に中司先生がご同行、現地案内や解説もして下さっています。

今回も中司先生や山本三郎先生からは詳しい解説を頂きながら、申し訳ないことに、見学記ではとてもその内容をご紹介しますことは出来ませんでした。

ぜひ多くの方に、現地見学にご参加いただき、先生の解説を直接にお聞き下さることをお薦めします。

<http://homepage2.nifty.com/toyonakarekishi/>